

如月

〔きさらぎ〕令和5年2月

一年の中で最も寒さを感じる月で、着る物をさらに増やす月という意味で着更着とも書きます。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

日の本に生れ出でにし益人は

神より出でて神に入るなり

— 中西直方・死道百首 —

今月のことば

日の本に生れ出でにし益人は

神より出でて神に入るなり

— 中西直方・死道百首 —

神道は神より出でて、神に帰一する道である。別言すれば、氏神の許に生をうけたものは、やがて死すれば、氏神の許に帰っていく。人は自分から生まれんとする意思を以って、生まれてきたものではない。という意味は、人間の生命も、生きようとする意志も、広く見れば神から与えられたものであることを意味する。死んで人間の帰っていくことも、自己の意思によるものではなく、全ては神の意志のまにまにである。神のみ手に引かれての生き方に、安心を見出す道がここにある。

歌の意味は「この日本の国に生をうけた人々は、その生命・魂を親・祖先の神からうけたものであり、死んでからの行く先も親・祖先のところへ帰る以外にない」ことを教えたものである。

（神道百言一般財団法人神道文化会編より抜粋）

季節のまつり

節分

二月三日

家族そろって「鬼は外」

節分は、季節が移り変わるときという意味で、立春・立夏・立秋・立冬の前日を言いましたが、特に気候が冬から春に移る時期であることから、立春の前日だけを呼ぶようになりました。そして、季節の変わり目には災いや疫病が増えるため、厄や邪気を鬼に見立てて追い払う「追儺」の行事を取り入れて、豆まきを行います。まいた豆を年の数だけ食べるのは、年取りの行事で、新しい年を健康（まめ）に暮らせますように願いを込めて食べます。



恵方

恵方巻き

今年の恵方は「南南東」

恵方とはその年の干支によって定められた最も良いとされる方角のことです。今年の恵方は「南南東」です。その方向に歳徳神がいるといわれ、節分にその恵方に向かって巻き寿司を食べることから「恵方巻き」や「恵方寿司」と呼ばれるようになりました。恵方巻きは目を閉じて願い事を思い浮かべながら、恵方に向かって無言で一本丸ごとの海苔巻きを丸かぶりします。巻き寿司を切らずに食べるのは「縁を切らない」という意味が込められており、七福神にちなんで七種類の具材が入れられ、「福を巻き込む」という願いも込められています。

針供養 なぜ二月八日なのか？

二月八日には、日ごろ使っている針を供養する行事があります。これは江戸時代から始まった行事で、この日は針仕事を休んで、折れたり曲がったりして使えなくなった針を、こんにやくや豆腐、餅などに刺して、川に流したり、神社やお寺に持ち寄りました。

そして、日常生活に欠かせない針に感謝をささげるとともに、針仕事の上達と安全を祈ったのです。

この針供養は、地域によっては二月八日と十二月八日の年二回行いますが、この二日は、こと始めとこと納めという厄日に当たるために、針仕事を休んで針の供養をするようになったということでした。

最近ではこの行事はあまり見られなくなりりましたが、和裁を教える学校などでは、現在でも針供養を行っています。

むげんほうよう 夢幻泡影

夢と幻と泡と影。つまり人生がはかないことのたとえ。だからこそ大切に生きよ。

椿（つばき）



参考文献 『日本人のしきたり』飯倉晴武（青春出版社）

令和 5 年
2023 年

2 月

日	月	火	水	木	金	土
			1 大安 とら	2 赤口 一粒万倍日 う	3 先勝 節分 たつ	4 友引 立春 み
5 先負 初午 一粒万倍日 うま	6 仏滅 ひつじ	7 大安 さる	8 赤口 こと始め 針供養 とり	9 先勝 いぬ	10 友引 三りんぼう る	11 先負 ● 建国記念の日 紀元祭 ね
12 仏滅 一粒万倍日 うし	13 大安 とら	14 赤口 う	15 先勝 たつ	16 友引 み	17 先負 祈年祭・二の午 一粒万倍日 うま	18 仏滅 ひつじ
19 大安 雨水 さる	20 友引 とり	21 先負 いぬ	22 仏滅 三りんぼう る	23 大安 ● 天皇陛下御誕生日 天長祭 ね	24 赤口 一粒万倍日 うし	25 先勝 とら
26 友引 う	27 先負 たつ	28 仏滅 み				

二十四節気

【立春 りっしゅん】… 四日

太陽黄経三百十五度のときにあたり正節で、節分の翌日になります。暦の上ではこの日から春ですが、まだ寒さは厳しい候です。

【雨水 うすい】… 十九日

このころ雨水ぬるみ、草木が発芽しはじめます。

六曜・選日

《六曜》

【先勝】… 諸事急ぐことによし、午後よりわるし

【友引】… 朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む

【先負】… 諸事静かなることによし、午後大吉

【仏滅】… 万事凶、患えば長びくおそれあり

【大安】… 何事をするのにも吉の日、大吉日

【赤口】… 諸事油断すべからず、正午のみ吉

《選日の吉凶》

【三りんぼう】… 三隣亡日、普請始め、棟上大吉日

【一粒万倍日】… 出資・投資・購入、新規事業開始

婚姻は吉、借りる、離別は凶

七十二候《2月》

雨水

初候・土脈潤起（つちのしめりおこる）
土が雨で湿り気を帯びる

次候・霞始靄（かすみはじめてたなびく）
霞がたなびき始める

末候・草木萌動（そうもくもくはじめてうごめく）
草木が芽吹き始める

立春

初候・東風解冻（はるかぜこおりをとく）
春の風が氷を解かす

次候・鶯見腕（こうおうげんかんす）
ウグイスが鳴き始める

末候・魚氷上（うおこおりにのぼる）
割れた氷から魚が飛び出す

※七十二候とは二十四節気の各節気をさらに三つの候に細分し、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろいを気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

安産祈願 2月の戌の日

9日 (木)
21日 (火)

*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

《11日 建国記念の日》

建国をしのび、国を愛する心を養う日です。

《23日 天皇陛下御誕生日》

天皇陛下の御誕生日を祝う日です。



祝祭日には国旗を掲げましょう

令和5年の厄年

男性		女性	
数え年	生年	数え年	生年
25歳	平成11年生	19歳	平成17年生
42歳	昭和57年生	33歳	平成3年生
		37歳	昭和62年生

還暦

男女	61歳	昭和38年生
----	-----	--------

※各年齢の前後が前厄後厄となります。
※厄年には地域や神社により習慣の違いがあります。
詳しくは御社頭にてご確認ください。

「厄年」とは何歳ですか？

厄年は男性が二十五歳・四十二歳・六十一歳で、女性が十九歳・三十三歳・三十七歳の年回りを言います。その前後の年齢を「前厄」「後厄」と言います。中でも、男性の四十二歳は「死に」、女性の三十三歳は「散々」に通ずると言いつつ語呂合わせから「大厄」と言われて、特に意識されることが多いようです。神社では、正月から二月の節分にかけて「厄祓」のご祈禱を受ける人が多く見られます。厄年は近年、医学的に解明しようとの試みもなされていますが、ホルモンの分泌量の変化や、免疫力低下などにより体調不良を起こすことがデータのにも多いようで、神社での厄祓の際に授与された神札を神棚におまつりし、お守りを身近に持ち歩くなど、普段より健康に留意し、生活することが大切でしょう。